

駐在員だより「英語を学ぶ外国人のための ESL クラス」

ミシガン州イーストランシング市にはミシガン州立大学があり、留学生、交換研究生等、国出身の大学関係者が多く生活しています。研究のために外国から来ているが、英語が得意じゃないという人は個別に家庭教師を頼んだり、あるいは、ESL (English as a Second Language : 英語が母国語ではない) クラスで、英語を勉強したりしています。私は、市内の教会が主催する無料の ESL クラスに行っています。毎週水曜日午後 6 時から 1 時間 30 分のコースです。

インストラクターはデイヴ・アンカファーさん。ここでは、最初に”State News” というミシガン州立大学が発行するタブロイド判のフリーペーパーから、デイヴさんが選んだ記事に参加者が 2、3 段落毎に音読し、わからない言葉の発音、意味等を学び、その記事の中身について話し合います。これを 45 分程度で終えて、残りの 45 分で、英語の慣用表現について学んだり、また、参加者が「あなたにとって余暇とは？」といったテーマを与えられ、それについて自分が思うことを英語で話し、議論したりしています。

参加者の国籍は、中国、韓国、台湾、ロシア、ブラジル、グアテマラ、台湾、トルコ、タイ、日本と多彩です。ここでは、参加者の出身国間の紛争や領土問題等について議論するようなことはありません。

自由参加ですし、行ってみたら参加者が 12 人ぐらいいることもあれば、2 人だけのこともあったりします。教会だからと言って、キリスト教のことを強制的に押し付けてくることもなく、一般的な英語を教えてくれています。イースター等のキリスト教関係のイベントや祝日が近付くと、その由来等の説明は熱が入っていました。

デイヴさんはインストラクターを 1998 年から続けているとおっしゃっていましたが、ここで教えるきっかけ、モチベーションは何かと聞くと、「ヨーロッパに行って、英語が通じないところで苦労した経験があるんだ。その国の言葉を知ることがどんなに大切かを知ってね。外国からアメリカに来た人たちがここで快適に生活するために手助け出来ないかと考えたのがスタートだよ。ここに来てくださる方の英語が伸びているのを実感するのが何よりうれしいよ」と話してくれました。



デイヴさんとパートナーのクリスさん



State News の紙面